

個人質問(11月28日) くれまつ順子議員

ヘルプマーク導入へ

「早速大村知事に連絡して進める」(河村市長)



くれまつ順子議員は11月28日の本会議で、援助が必要な方が優先席を使いやすくするなど日常的に様々な援助が得られるよう、ヘルプマークの導入を名古屋市に求めました。河村市長は「必要な施策だから早速大村知事に相談して進めていきたい」と答弁、その日のうちに大村知事にヘルプマークについて連絡し、導入に一歩踏み出すことになりました。

前日鶴飼議員(民進)も導入を迫っており、ヘルプマークへの注目は更に高まりそうです。

ヘルプマークとは

ヘルプマーク(下図)は赤地に白の十字とハートが書かれた手のひらサイズのストラップです。内部障害や難病の方、妊娠初期の方など、外見からは分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、ヘルプマークを身につけることで生活しやすくするのがヘルプマークの目的です。ヘルプマークをつけている方を見かけたら、電車・バス内で席を譲る、困っているようであれば声をかける等、思いやりのある行動をとることができます。ヘルプマークは、「見えない障害」を見えるようにして、周りの人が支援・配慮の手をさしのべるという助け合いのしるしです。

ヘルプマークの使用者からは、「ヘルプマークで事情があると伝えることができ、とても気が楽になった」「手助けしてくれる人が多くなりとても嬉しい」、支援者からは、「困っている人に声をかけやすくなった」との声が上がっています。市民の中で口コミで広がり、わざわざ東京に出かけて取り寄せる例もほど人気です。



ヘルプマーク



優先席のヘルプマーク

名古屋市も市バス・地下鉄の優先席にヘルプマークの掲示を

くれまつ議員は「東京都が作成したヘルプマークは、都営地下鉄やバスで、希望者に無料で配布されている。電車やバスの優先席にはヘルプマークのステッカーが標示されており、このマークを身につけた方が優先席に座りやすいよう配慮されている」と紹介。



くれまつ議員は「名古屋市でも、市バス・地下鉄でヘルプマークを配布し、優先席にヘルプマークを掲示してはどうか」と提案しました。

くれまつ順子議員

交通局長は「他都市や他事業者の動向を把握するとともに本市の福祉施策を見守りたい」と答弁しました。

東京都は全国の府県・政令市にヘルプマークの普及依頼を行っています。今年4月に京都府、7月に和歌山県と徳島県、10月に青森県が導入を決め、来年度以降は札幌市と岐阜県が導入予定です。

福祉都市環境整備指針への盛り込みを

くれまつ議員は「名古屋市の福祉都市環境整備指針にはお互いの違いを認め合い支えあえる『意識のバリアフリー』の推進がかかげられている」と指摘。同指針にヘルプマークを盛り込むよう求めました。

これに対し健康福祉局長は、「ヘルプマークを効力あるものにするためには広域的取り組みが必要。他の自治体の取り組みについて情報把握に努めるとともに、本市の取り組みの参考にしていきたい」と答えました。

河村市長 即日大村知事に連絡

くれまつ議員が重ねて求めると、河村市長は「せっかくの話なのでこれは必要だと思う。地下鉄に乗っている人は名古屋市民ばかりではないので、早速大村知事に連絡して進めていきたい」と前向きに答弁しました。